

# 図書館だより

NO. 7

2016年11月2日

## ◇10月の学年別貸出冊数

学年	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年
貸出冊数	272冊	430冊	155冊	52冊	71冊	26冊

総貸出冊数 1006冊

## ◎11月の開館スケジュール

原則、毎日開館です。閉館日は日曜日、休日（11/3、11/6、11/13、11/20、11/23、11/27）

※ 但し、授業のない土曜日（11/5、11/19）は午前中のみ開館です。

## ◎新着案内

新着図書が96冊入りました。教室掲示の新着図書案内、図書館入口新着図書コーナーでご確認ください。

## 新着図書ピックアップ

### ・「漢字の使い分けときあかし辞典」 円満字二郎 著 R-811-E

「同訓異字」の漢字の使い分けについて、親しみやすい読み物ふうに解説されています。たとえば、「大成功をおさめる」や「家賃をおさめる」の際は「収める/納める」どちらを使用するのか？・・・答えは本の中に…ぜひ確認してみてください！

### ・「書評大全」 共同通信文化部 編 019-S

図書館や本屋に行っても、どの本がおもしろいかわからない…だからいつもマンガだけ読んで帰ってきてしまう。そんなあなたにピッタリなのがこの「書評大全」です。1998～2014年までの書評データを一冊にまとめ、掲載書名は約5000冊、評者は1600人。この本さえ調べれば、必ずあなたが読みたい一冊が見つかるはずです。

## ◎リクエストについて

今年度分の本の発注は12月分で終了します（1月分の新着図書）。そこで、今年度中に購入して欲しい本がありましたら、11月15日までにリクエストしてください。

それ以降の分については、来年度分となり、5月以降の購入になります。

## お知らせ 《漫画の貸し出しと配架について》

11月7日（月）より、学習漫画本（歴史、古典文学、近代文学等）以外の漫画本（あさひなぐ、4月のスピカ等）の館内閲覧を停止、貸出のみ（貸出期間2泊3日、放課後のみの貸出）とします。配架も閲覧室から司書室に移します。（学習漫画については、貸出、閲覧とも常時ですが2泊3日です。）

貸し出せる漫画は「蔵書検索システム」で「詳細検索」のところから分類記号欄に「M」と入力し、検索すると表示されます。借りたい場合は、司書に申し出てください。

このように措置するのは、漫画閲覧者の一部ですが、再三注意しても

- ・パソコンコーナーを占拠する。声高に話す者もいる。
  - ・パソコンコーナーの椅子を勝手に移動する。机に腰掛ける。
  - ・読んだ漫画本を放置したままにする。
  - ・貸出手続きを踏まず、勝手に持って行ってしまう。（これは窃盗行為です。）
- といった「マナーの悪さ」が目には余るからです。

## ☆図書館を活用しましょう 第4回《応用編—思考力を高めるレファレンス本の活用》

本校の図書館の特徴は、中学と高校が併設されていることにより、蔵書数も4万冊余りと多いこと、それと対象が中学生向けから一般向けまで幅広い本が揃っていることです。その中で際立っているのはレファレンス本の充実だといえます。ここでいう「レファレンス本（参考図書）」とは図鑑等の**ビジュアル本**と**ジ典類**（事柄を説明する「事典」、言葉を説明する「辞典」）を指すこととします。ふつう高校の図書館ではビジュアル本は少ないですし、中学ではジ典類は基本的なものにとどまっているのですが、本校では両方共がかなり充実しています。

今回も奥野宣之『図書館超活用術』（朝日新聞出版）を参考に活用方法を紹介します。（「 」内は引用）  
**Step6：ビジュアル本**

ビジュアル本とは、図版やイラスト、写真などを多用した本のこと。図鑑、写真集やタイトルに「図解」「イラストで分かる」「写真で見る」といった言葉が入っているものをいいます。

分類本棚にありますが大規模のものが多くので最下段にある率が高いです。ピックアップして本棚の上に展示しているものもあります。

こうしたビジュアル本の利点は、いまひとつわかり辛い事柄の「大まかなイメージをつかむことができるようになる」ことです。ビジュアルや写真を見ていけば「興味はなかったが、ここだけはおもしろい」ということが出てきたり、好奇心や新しい発想につながっていったりすることもあります。

「脳科学によると、文字や言葉を扱っているときと、写真やイラストを扱っているときとは、やはり脳の働きが違うそうです。出てくるアイデアも一味違ってくるのです。」

探究活動において、行き詰った時など「視点を変える」「アプローチを切り替える」上で試してみることをお勧めします。

たとえば、雑誌本棚の上に『137億年の物語—ビジュアル大年表』という、開くと2.36メートルになる宇宙が始まってから今日までの全歴史が一目でわかる年表があります。図書館の机なら広げられますから、気晴らしに開いてみてはいかがでしょうか。

### Step7：レファレンスコーナー〈本校では「ジ典コーナー」〉の活用

レファレンスコーナーとは、図書館の中で百科事典をはじめ、日本語や外国語の辞書、歴史や地理の大事典、自然科学の大事典などの参考図書（レファレンス本）を集めてあるコーナーのことです。本校の図書館では、入口を入って左側にある〈ジ典コーナー〉と中央柱付近にある〈百科事典棚〉が相当します。レファレンスコーナーの本もNDCの番号順に0類から9類まで並んでいますので、「図書館の中のミニ図書館」といえるでしょう。分類が近いものは関係も深いので、「周辺の情報にも自然と目が届き」、ついでに手に取ってみると参考になることがあります。

「考えをまとめる段階で、レファレンスコーナーで本を見ておくメリットは、自分の視点に「抜け」がないことを確認できること。レファレンスコーナーにある基本的な参考文献は「〇〇大事典」といった網羅的内容のものが多くので、こうしたレファレンス本でチェックしておけば自分が忘れていた論点や視点に気づくこと。あいまいな知識の確認に使えること。また、どんな論点があるか、これまでどんな議論があったのかも確認できること。」などです。確認のための利用に最適です。ですから、レファレンス本は、インターネット検索のようにキーワードで「引く」のではなく、「ざっとめくって確認する」活用方法がよいでしょう。

レファレンスコーナーは、じっくり調査したり、文献を読み込んだりしながら、一つの課題意識やアイデアを育て上げ、「自分の考え」をまとめていく場面で有効です。

### 本校にある主なレファレンス本《百科事典棚にあるもの》

百科事典：世界大百科事典、日本大百科全書、ポプラディア（50音順）、万有百科大事典（分野別）  
年鑑：「子ども年鑑」「朝日ジュニア学習年鑑」「ニュース年鑑」「世界の統計」「日本の統計」など  
新語辞典：「現代用語の基礎知識」「日経キーワード」「朝日キーワード」  
便覧（ハンドブック）：「理科年表」「環境年表」

その他の大事典、辞書（字引）はレファレンスコーナーに分野別にあります。

どのようなものがあるのか、一度さらっと確認してみましょう！